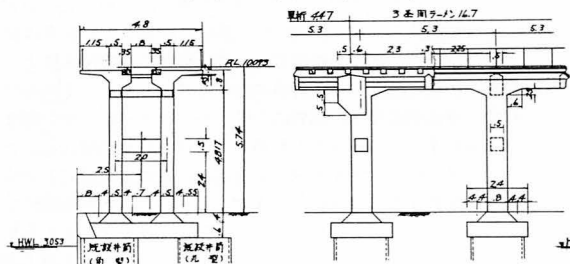
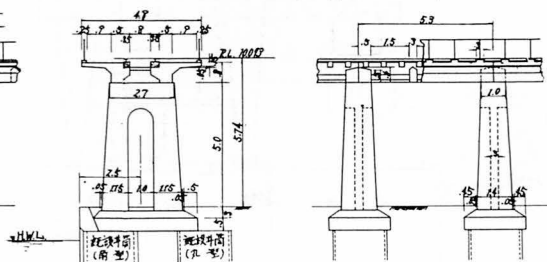


2. 石炭棧橋の諸型式

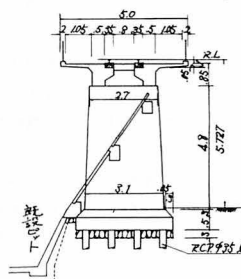
芹田 (連種) 3区町連統折部分 41.75 (27年度施L)



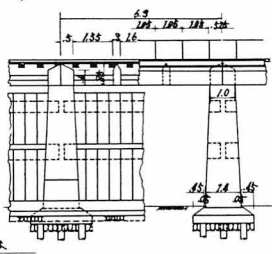
荷田(通稱) 筆桁部分89.7^m (27年度施工)



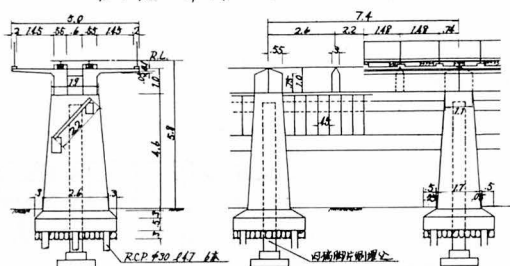
西唐津



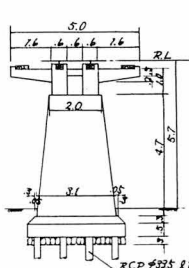
單行 422m 斜路 107m (27度施工)



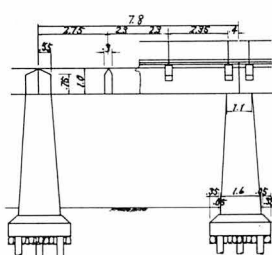
東小倉 單桁 333m (30年度施工)



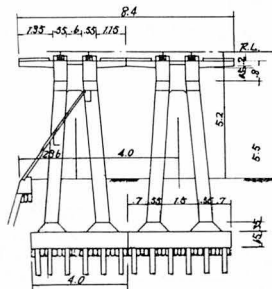
白，浦



單刊 318^m (804度施L)



戸畑 (新川) 連続研模線部の250m
(25年度地工)



般の貯炭場では単位面積当たり 2.5 t、1 年間 10 回転として年間の貯炭能力 25 t/m² となる。手積の場合にはこの $\frac{1}{2} \sim \frac{1}{3}$ 程度である。炭種の多少(粘結性, カロリー, 業者別)によって貯炭場の効率を支配されることが多い。貯炭場の形状はトランスポーター利用には矩(く)形が便利であり, 幅員は 30 m~100 m が適当である。

5 荷役機械

(1) ペルトコンベヤ 棧橋またはカーダンパで取扱う石炭の運搬に利用する。

ベルトの幅(mm)	450	600	900	1,200
能力 t/h	60	125	400	900
最大限 m	180	220	220	260

わが国では 300~800t/h のものが多い。ベルトの許容し得る傾斜は 17°, 粉炭の場合は 20° でよい。普通はゴム製であるが、鋼を用いたものもある。

(2) トランスポーター 能力はグラブの運搬能力で定まる。
グラブの容量は普通 3~5 t である。

グラブの容量	能力 (t/h)
2 t 以下	40~100
2.5~4 t	100~250
5 t	250~300

形式は

ロープトロリー 構造簡単
マントロリー 操作が容易

リクレーミング クレーン 構造は複雑であるが能力は大きい。普通ベルトコンベヤを備えグラブの走行を省略する。

1日の可動時間 7.5～8時間

年間の可動日数 300 日

(3) □ - ダ -

はしけ積の場合 100~200t/h

汽船積の場合 300~800

実働能力は公称能力の 70~80% である。

形式

固定式 設備は簡単である。ある程度は回転して船のハッチに合わせるが、船が小さければ船の方を移動させる必要がある。

可動式 船を移動させる心配はない、移動用の走路が必要である。

6 船積方法

人力(肩荷役)補助としてトロ、リヤカーを使用する。

(1) 重力式

現在わが国にあるものは高架棧橋(直積棧橋)を岸壁沿いに設